



1980・春 第3号

Агора アゴラ

鶴見大学図書館報



目 次

館長就任にあたり	図書館長 中村 初雄	1
あざやかな場面—子供の頃の本の思い出	歯学部教授 山本 昭	2—3
昭和54年度 年次報告		4—11
新刊アラカルト		12—13
図書館だより		14
編集後記		14



館長就任にあたり

文学部教授 中村 初雄

岡田温館長が退任されたあとを受け、図書館長に任命されました。館長ははじめての経験、管理職（ライン）も久しく離れておりました私にとって大変な重責です。ただひたすらに、先輩・スタッフの方々の御理解と協力を得て、よりよき奉仕をはかりたいと思います。

図書館は真空の中にあるのではない。利用者の要求なしに図書館は育たない。とよく言

われております。その意味で皆様方の御注文を受けるアンテナは高感度に保っておきたいものです。経営の実状を無視して、出来ないことまで無理して行うというのではなく、一図書館の歴史は、それが短命なもので結局は崩壊に結びつくことを示しています——調整をよくはかり、図書館間協力なども導入した上で、次第に改善の実をあげてゆきたいものと思います。



あざやかな場面

—子供の頃の本の思い出—

歯学部教授 山 本 昭

ふと、目をとじると鮮かに甦ってくる情景というものがある。それは、映画の1シーンであったり、絵本の1ページだったり、あるいは夢の一部であったりする。

また、その情景に関する記憶はあまり定かでないのに、その周辺の状況だけが、いやに鮮明であったりする。

確か、中学の1年か2年の頃、シネマパレスで見た映画に「運命の饗宴」というのがあった。1着の燕尾服をめぐるオムニバス・ドラマで、多分シャルル・ボワイエの主演だった程度しか思い出せないのだが、当時、新聞記者をやっていた叔父の「要するにこれは、毛唐版振袖火事だ。」という一言はいつでも思い出すことができる。今は亡い従弟が、「ペペルモコ」を見て、その邦題が「望郷」であるためか、映画のストーリーを話すのに「ボーキョーがどうして、女の人がかうして、そしたらまた、ボーキョーが……」などといっていたことも、何故か「ノーキョー」という単語を聞くと思い出す。

<スズメ、ユキンナカ…>

私の記憶にある最初の本は、表紙のちぎれた一冊の絵本である。タケイタケオのニワトリの絵がどこか他のページに出ていて、そのページでない見開きの所にあった「スズメ、ユキンナカ、マチノナカ……」というフレーズだけをおぼえている。これが出だしの文句なのか、それとも途中なのか、「雪ん中」でな

くて「雪の中」が正しいのかもわからず、まして作者が誰なのかも知らない。ただ、何となく白秋か、そのあたりの人ではないかと思っている。こうして気にしていると、何時か何かのはずみで作者がわかったりする。たとえば、西条八十の「帽子」のように……

——母さん、僕のあの帽子、どうしたんでしょうね？ このフレーズを、長く心にかかっていたのを、やはり気にしていた一人の作家が掘り起してくれた。

40代の半ばを過ぎた現在でも、舞い散る雪を見ると、「スズメ、ユキンナカ、マチノナカ。」ふと、口ずさんでいることが、しばしばある。

<鶴見の花月園に>

2番目の本は、雑誌である。多分、昭和14年か15年頃の幼年クラブである。倶楽部と漢字の題字になるのは、もう1ランク上の少年倶楽部からではなかったろうか。

目次の次あたりに、大きな鳥の形のスベリ台の写真があって、下の説明には——鶴見の花月園にニールスの不思議な旅のおすべり台が出来て、子供達の人気を呼んでいる——と書いてある。矢も盾もたまらずに、親にせびったが、全然連れて行ってくれず、しばらくしてやっとの思いですべてみたら、ただの大型すべり台に過ぎず大いに失望した。

鶴見女子大の教員の口がかかって来時、ふとこのことを思い出し、苦い物がこみあげ

て来たものだった。今、うちの下の子供がNHKのニルスに現を抜かしている。

＜本郷病＞

列車に乗ってボンヤリしていると、私は知らぬ間に、ゴトン、ゴトンというレールの継ぎ目の音を数えたくなる。これは、本郷病の後遺症である。本郷病といっても、東大生のそれではなく、山中峯太郎の「亜細亜の曙」の主人公、本郷義昭かぶれのことである。

うちには、姉しかいなかった筈なのに、この手の本は殆んど揃っていた。敵中横断三百里、ジャガーの眼、吼える密林、謎の暗号、神州天馬峡、まぼろし城、数え出したらキリがない。

その本郷が、○国人に捕えられて、厚いゴム製の覆面をかぶせられ、地下列車に乗せられる。その時、レールの継ぎ目の数を数えて連行先までの距離を知るのだ。

小学2年生の私は、それにすっかりシビレてしまい、今でも本能的にゴトン、ゴトンを数えることになる。

＜子供の天文学＞

次の記憶は、小学校——呼び名は国民学校と変っていた——の3年生の時のこと。

私の生れて育った所は、神田の外れ、それも大外れなので、ほんの僅か北へ走れば下谷二長町、少し東へ歩めば浅草区向柳原である。だから、家は神田区にあるのに電話番号は下谷の6664番だった。

最寄りの映画館といえば、鳥越日活というのがあって、ここで日活の活動をやっていた。につかつの映画ではない。当時は、そのあたりには映画という言葉はなく、活動写真、それを「カッドー」と呼んでいた。その頃の名子役に片山昭彦という人がいて、そういえばタカミネヒデコという人もいた。活動の題名は、「まぼろし城」であったか、「路傍の石」であったか、それとも「風の又三郎」

だったかは定かではないが、映画の帰り道に向柳原の本屋の店頭で見た本の表紙に戦慄を覚えた。その時の、「ぞくっ!!」とした感覚は今も鮮明に甦える。

画面のほとんど全域が青っぽい色調で、下方あたりが地平線で、右よりにピラミッド型の山頂がある。青の色が一段と濃くなっている画面中央やや上方に皆既日食の太陽が周辺にほのかな光をただよわせながら描かれている。僅かに明るい所といえば、地平線のあたりと、山麓の湖の一部が光っているだけだ。

もう、これ以外はない。絶対がない。父親にねだったが、買って貰えなかった。寝ては覚め、覚めては現の騒ぎで、やっと買って貰えた時は、昭和18年1月発行の再版の時であった。恒生社発行、山本一清著「子供の天文学」という本である。

この本は、今も私の手許にあって、表紙の絵も色褪せ、たとえ色褪せなかったとしても、陳腐な絵としかいいようのないものであるが、太平洋戦争の末期に親許を離れ、叔母の一家と疎開させられた時に携帯し、悲しみばかり多かった時代の心の友として捨て去ることのできないものである。

『本の虫』であった私は、折角の田舎暮らしも家の中にこもってばかりではとの父親の考えから、辞書を含めて4冊の本しか持参を許されなかったのである。



昭和54年度 図書館年次報告

— 図書館の現状を知るために —

昨年度一年間の当館の業務について、次の項目に従って、報告いたします。

- | | |
|--|---|
| <p>I 図書予算及び決算（資料費）</p> <p>II 受入冊数、寄贈冊数、整理冊数及び蔵書数</p> <p>III 蔵書点検報告</p> <p>IV 利用状況</p> <p>1. 閲覧</p> <p>1) 本館</p> <p>2) 歯学部別館</p> <p>2. 参考業務</p> | <p>V 図書館の動き</p> <p>1. 施設</p> <p>2. 委員会</p> <p>1) 図書館運営委員会</p> <p>2) 図書委員会</p> <p>3. 組織及び人事</p> <p>4. 職員研修</p> <p>5. 刊行物</p> <p>6. その他</p> |
|--|---|

I 図書予算及び決算（資料費）

	文 学 部		歯 学 部		短 大 部	
	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算
図 書	35,500,000	33,144,162	33,000,000	33,004,152	11,000,000	11,004,923
県 補 助 金	600,000	634,560			400,000	425,050
バックナンバー			15,000,000	15,012,410		
学 術 雑 誌	2,000,000	2,206,892	33,000,000	33,001,489	1,000,000	1,166,204
父 母 会	900,000	899,300				
計	39,000,000	36,884,914	81,000,000	81,018,051	12,400,000	12,596,177
総 資 料	132,400,000	130,499,142				

※ 県補助金（大学）及び父母会補助金は暫定的に文学部に入れた。

※ 文学部図書費には一般図書の他に大学院準備、特別研究費、博物館学、図書館学、源氏物語研究所の予算も含む。

II 受入冊数、寄贈冊数、整理冊数及び蔵書数

II-1 受入冊数

上記図書予算に基づいて1年間に受入した冊数は右のように合計で24,937冊である。昨年度に続く増加数で資料の充実がはかられている。

受入冊数

	和	洋	計
文学部	7,952	2,705	10,657
歯学部	4,272	5,504	9,776
短大部	4,235	269	4,504
合 計	16,459	8,478	24,937

Ⅱ-2 寄贈冊数

寄贈図書は、次のように個人や関係機関などより、合計で1,143冊を受入れた。主なものを挙げると

- 日本文学科第14回卒業生，源氏物語大成 全8冊
- 国文科第25回卒業生，日本古典文学全集 全51冊，平家物語全注釈 全4冊。
- 渡辺義男教授，小児歯科学他 16冊。
- 大屋幸世助教授臼井吉見評論集戦後他 75冊。／

- 藤田厚子氏，図書館奉仕論他 9冊。
- 深沢初美氏，草の花（福永武彦著）他7冊。
であるが，その他多くの方からいただいた。

寄 贈 冊 数

	和	洋	計
文学部	628	40	668
歯学部	93	63	156
短大部	315	4	319
合 計	1,036	107	1,143

Ⅱ-3 整理冊数

1年間に整理した図書の冊数は、次のように合計で11,806冊，この他に逐次刊行物がある。

逐次刊行物 1,466 (95)

整理冊数（NDC主題別）

部門	和	洋	合 計
0	462 (10)	368 (3)	830 (13)
1	934 (2)	107 (3)	1,041 (5)
2	782 (1)	82	864 (1)
3	1,160 (2)	59 (2)	1,219 (4)
4	1,823(477)	1,364(165)	3,187(642)
5	123 (4)	13 (1)	136 (5)
6	52 (3)	2	54 (3)
7	735 (68)	89 (13)	824 (81)
8	202 (7)	206 (5)	408 (12)
9	2,348 (45)	894	3,243 (45)
合計	8,621(619)	3,184(192)	11,805(811)

() 内は研究室図書

Ⅱ-4 蔵 書 数

昭和54年度末所蔵する冊数は次のとおりである。

登 録 数	187,538
そのうち 整理済図書	113,225
製 本 雑 誌	35,485
逐次的図書	3,365
視聴覚資料	835
未整理図書	28,910
除 籍 図 書	5,718

整理済図書の主題別冊数は右の表のとおりである。

整理済図書冊数（NDC主題別）

部 門	和	洋	合 計
0	6,332	2,789	9,121
1	5,749	903	6,652
2	5,985	561	6,546
3	8,732	533	9,265
4	22,804	10,065	32,869
5	1,752	153	1,905
6	455	33	488
7	4,312	259	4,571
8	4,476	3,096	7,572
9	25,008	9,228	34,236
合 計	85,605	27,620	113,225

Ⅲ 蔵書点検報告

昭和54年3月末日に調査した結果、不明図書は下の表のようになり、医歯学を中心とした自然科学系と、文学をあわせた不明図書冊数が全体の75%にもおよんだ。また、

今回の調査は、昭和53年、54年に整理された図書が対象だが、前回及び前々回にくらべ、不明図書の冊数が急激に増加した事が、目立った。

昭和54年度蔵書点検不明図書冊数									
調査年 部 門	50、52、54		52、54/50、54		54		小 計		合 計
	(和)	(洋)	(和)	(洋)	(和)	(洋)	(和)	(洋)	
0	7		80		72	7	159	7	166
1	12	2	9		47	3	68	5	73
2	7	1	17		27	2	51	3	54
3	31		47		53	1	131	1	132
4	183	6	236	5	454	48	873	59	932
5	11		7		4		22		22
6			6				6		6
7	8		9	1	33	1	50	2	52
8	28	2	28	2	64	8	120	12	132
9	170	7	222	8	555	39	947	54	1001
小計	457	18	661	16	1309	109	2427	143	2570
合計	475		677		1418		2570		2570

Ⅳ 利 用 状 況

1. 閲 覧

サービス対象者：5,291人

学生 3,779人、大学院生 19人
専攻生 4人、臨床専科生 109人

図書館学講習生 609人
教員 531人、職員 240人

1) 本館（開館日数 248日）

① 入館者数

昭和50年度より毎年入館者数が増加していたが、右の表のように職員の入館者数以外は減少している。この原因のひとつに、9月26日～10月4日の間、歯学部別館の移転にともない、本館閲覧室一部移動のため部分的に閉館したことが影響していると思われる。

	入 館 者	前年度入館者	前 年 比
学 生	57,585人	62,495人	92.1%
教 員	2,061	2,510	82.1
職 員	762	727	104.8
その他	91	116	85.8
合 計	60,499	65,848	91.9

② 資料の貸出

下の表は学生・教職員・講習生の全体の貸出状況を表わしているが、この表のように、貸出は平均して横ばい状態を示している。

特に学科別・部門別貸出冊数表にみられるとおり学生貸出の71.4%が日本文学科、国文科で占められ、専門分野である9部門の貸出が全分野の7割以上にもおよんでいる点が目立つ。

利用者別貸出冊数

	学 生			教 職 員	講 習 生	合 計
	一般貸出	一夜貸出	卒論用貸出			
貸出冊数(冊)	17,316	191	1,659	1,850	1,862	22,878
	19,166					
前 年 度(冊)	16,649	409	1,824	2,092	1,361	22,458
	19,005 (その他123冊含む)					
前 年 比(%)	100.8			88.4	136.8	101.9

学科別・部門別貸出冊数(学生)

部 門 \ 学 科	日 文	英 文	歯 学	国 文	保 育	保 健	計	全 体 比
0	197	102	2	215	6	2	524	3.0%
1	136	56	9	85	55	15	356	2.0
2	164	120	4	96	13	12	409	2.3
3	108	45	17	79	566	31	846	4.8
4	21	10	1288	35	112	591	2057	11.8
5	10	1	1	10	17	0	39	0.2
6	0	0	0	3	0	0	3	0
7	115	77	21	82	109	14	418	2.4
8	252	120	1	138	0	0	511	2.9
9	6592	1334	50	4163	110	69	12318	70.4
その他	1	1	2	0	20	2	26	0.1
合 計	7596	1866	1395	4906	1008	736	17507	
全 体 比	43.4%	10.7	8.0	28.0	5.8	4.2		
前 年 度	8069	1431	1591	4573	831	564	17059	
前 年 比	91.4%	130.1	87.7	107.3	121.3	130.5	102.6	
1人平均	10.6冊	2.6	1.4	10.1	1.9	2.0		

③ 雑誌・紀要の閲覧・貸出

国文学：210冊，国文学解釈と鑑賞：150冊，文学：81冊，国語と国文学：66冊，日本の美術：34冊など学生の館内閲覧総数，1,330冊。教職員貸出141件 251冊。

④ 複写

校費：145,589枚 私費：19,426枚
合計 165,015枚

⑤ 相互利用

他館へ依頼：90件 他館より受付：50件

◎ 予約図書申込：282冊

◎ 返却ポスト利用冊数：324冊

◎ 視聴覚資料貸出：25件

◎ 展示：以下のような内容で，4回展示をした。

- 夏目漱石著作復刻本
- 写経と版経
- 源氏物語の伝来と流布
- ケルムスコット・プレスとウィリアム・モリス—イギリスにおけるプライベートプレス

2) 歯学部別館（開館日数258日）

- 入館者数：下の表参照
- 貸出：雑誌（教職員対象）270件，460冊
- 複写：校費205,385枚 私費4,037枚
マイクロコピー196枚 合計209,618枚
- 相互利用：他館への依頼 1,006件（国内914件，国外92件）8,641枚
他館より受付，719件，4,765枚

	入館者	前年度入館者	前年比
学 生	1,092人	878人	124.4%
教 員	6,303	7,399	85.2
職 員	900	1,108	81.2
その他	127	38	334.2
合 計	8,422	9,423	89.4

2. 参考業務

専任の担当者を置いた初年度で，一年かかって，ようやく「相談係」の存在が認識されるに留まった。

一般回答業務件数

	学生	教員	職員	外部	合計
即答できる案内	131	12	2		145
所 在 調 査	61	72	9	2	144
文 献 検 索	69	8	13	1	91
利 用 指 導	32				32
そ の 他	2	2	1		5
合 計	295	94	25	3	417

V 図書館の動き

1. 施設

歯学部別館の開設（10月1日付）本館内の一部改装及び移動にともなって，昭和54年度末現在次の状況である。

書架及び閲覧室

本館	2階	452 m^2 (115席)
	3階	336 (90)
歯学部別館		550 (42)
計		1,338 m^2 (247席)

書庫

本館	2階	106 m^2
	3階	92
歯学部別館		66
計		264 m^2

その他

館長室	30 m^2
司書室	95
複写室	17
倉庫	23
計	165 m^2
総合計	1,767 m^2

2. 委員会

1) 図書館運営委員会

① 委員

文学部日本文学科大屋幸世助教授，英米文学部土屋順子教授，一般教育松野純孝教授，歯学部臨床課程大森郁朗教授，基礎課程千葉元丞教授，進学課程関根透助教授，短大部国文科露木悟義助教授，保育科芹沢勇教授，保健科宮入秀夫教授，一般教育三沢ゆたか講師，図書館岡田温館長，有岡章事務長

② 委員会：開催されず。

2) 図書委員会

1. 文学部・短大部合同図書委員会

① 委員

文学部・短大部図書館運営委員と同じ。

② 委員会

◎第1回 昭和54年5月17日（木）

P.M. 3:00～4:30

○昭和53年度決算報告について了承。

○昭和54年度予算について検討した結果，各科配分について図書館担当予算を増加し，一般教養，学部隣接領域，学生希望図書等を購入することになった。また，同時に一般教養書等について選書委員会を設けることになった。

○閲覧関係の業務報告がされた。

○その他，コイン式複写機，指定図書，研究費図書等について検討された。

◎第2回 昭和54年12月20日（木）

P.M. 3:00～4:15

○昭和55年度予算案について了承。

この他に選書委員会が4回（6月21日，9月20日，10月18日，12月20日）開かれ，原則として2ヵ月に一度第3木曜日に開き，一カ月前に検討資料が回覧された。

また，資料の収集については大学院準備と

して，一般図書の他に全集，叢書の欠落部分を補充したが，継続事項になっている。一般図書のなかで特記すべきものとして，グーテンベルグの「42行聖書」と，ディドロの「百科全書」の原装復刻版，ケルムスコット・プレス版の5冊を受入れたことが挙げられる。

2. 歯学部図書委員会

① 委員

委員長・小児歯科学大森郁朗教授

委員・解剖学橋本敏教授，薬理学千葉元丞教授，予防歯科学大谷広明助教授，歯科放射線学五島洋太助教授，細菌学渡辺継男助教授，化学石井淑夫助教授

② 委員会

◎第1回 昭和54年5月14日（月）

P.M. 4:00～5:30

○昭和53年度決算報告について了承。

○昭和54年度予算について，主に3ヵ年計画の最終年度としての収書方針について検討。

○閲覧関係の業務報告。

○その他3号館への歯学部雑誌閲覧室の移転計画について説明。

次回として12月に昭和55年度予算案作成のために計画したが，時間的に調整できず開くことができなかった。代りに委員長のもとに予算案を作成し，各委員に了承していただいた。

資料の収集については特別収書，第2次3ヵ年計画の最終年度として，医歯学系の既刊図書及びバックナンバーを積極的に収集した。そのなかで特に1768年イギリスで最初に出版された歯学図書として有名な，T. パードモアの著作や，「解体新書」の原本で知られた，J. A. クルムスの「ターヘル・アナトミア」蘭訳版，1734年刊を受入れたことが挙げられる。

3. 組織及び人事

昭和54年4月1日付で館内事務組織を改正し、事務長のもとに第1資料係、第2資料係、参考係の3係を設置した。また同時に事務分掌規程（内規）も設けた。

人事に関しては岡田温館長が退職にともない昭和55年3月末日付で辞任した。また、歯学部別館開設にともない臨時職員1名が昭和55年1月7日付で増員された。

4. 職員研修

外部で開催された研究会、研修会を活用し参加した者は次のとおりである。

54. 4. 9 第20回日本医学会総会，総合医学展示 東京国際貿易センター 海野，四方田

4. 20 科学技術庁セミナー「情報サービスの国際化にいかに対処すべきか」竹橋会館 鈴木（誠）

6. 27～28 第9回ドクメンテーション・シンポジウム

機械振興会館 長谷川，樋川

7. 10 著作権資料協会・創立20周年記念講演会

日本民放連会議室 海野

7. 14 情報図書館学夏期シンポジウム

東京大学理学部化学教室講堂 鈴木（誠）

7. 20 神奈川県図書館協会施設見学会 中央大学 阿部，四方田

7. 25～27 昭和54年度「図書館等職員著作権実務講習会」

東京大学経済学部別館 山田

7. 26～28 昭和54年度「私立大学図書館協会総大会・研究会」

麗沢大学 岡田，八城

7. 26～30 昭和54年度「私立短大図書館担当者研修会」

嵯峨美術短大 府川

8. 21～24 昭和54年度「大学図書館司書主務者研修会」

私学共済九州会館 吉田

8. 22～24 第14回医学図書館員研究集会

東京慈恵医科大学 四方田，府川

10. 25～27 昭和54年度全国図書館大会

東京文化会館他 岡田，安藤

11. 5～9 第25回近世史料取扱講習会

国文学研究資料館 府川

11. 16 神奈川県図書館協会実地研修会

及び講演会

関東学院大学 有岡，樋川

11. 21～22 歴史資料保存利用機関連絡協議

会総会及び研究会 神奈川県立

青少年センター 府川

12. 1 第2回情報図書館学シンポジウ

ム 東京大学理学部化学教室講

堂 海野

12. 12 関東地区医学図書館協議会医学

図書館員研修会

東京慈恵医科大学 四方田

55. 2. 21 関東地区医学図書館協議会第2

回医学図書館員研修会

東京女子医科大学 四方田

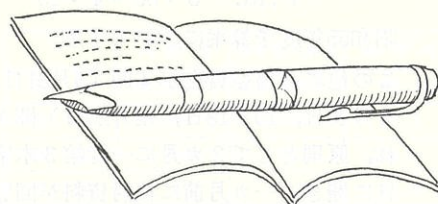
55. 2. 26 神奈川県図書館協会実地研修会

及び施設見学会

横浜国立大学 山田

この他に、私立大学図書館協会研究分科会例会にも、次の者が参加した。

閲覧奉仕・山田，事務能率・阿部，目録・鈴木（芳），理工学・四方田



5. 刊行物

当館刊行物は下記の通りで、主に学内に配布し、その他関連機関に若干送付した。

(1) 広報資料

資料名	巻 号	ページ数	規格	部数	発行年月日
館報「アゴラ」	創刊準備号 通巻1号	16	B 5	2,000	54. 7. 2
館報「アゴラ」	創 刊 号 通巻2号	12	B 5	3,000	55. 1. 10
利 用 案 内	1979 年版	16	18×18	5,000	54. 4. 6
新着図書案内	57 号	156	B 4	41	54. 4. 1
新着図書案内	58 号	106	B 4	41	54. 7. 1
新着図書案内	59 号	130	B 4	41	54. 10. 1
新着図書案内	60 号	164	B 4	41	55. 1. 1

(2) 書誌・目録

資 料 名	巻 号	ページ数	規格	部数	発行年月日
逐次刊行物 継続受入目録	1979 年版	102	B 5	500	54. 5. 1
展観書目録(国 文学及び医学)		48	A 5	250	54. 10. 27
虎 文 庫 目 録		70	B 5	300	54. 11. 8
逐次刊行物 所蔵目録	1979 年版	122	B 5	500	54. 12. 25
自然科学欧文編					

6. その他

昭和55年4月1日より、図書館の名称から「附属」をとり、鶴見大学図書館とすることになった。日本医学図書館協会正会員の登録名称は従来通り鶴見大学歯学部図書

館である。

また、図書館の蔵書印も従来の「学校法人総持学園蔵書之印」から、大学の所蔵であることを明らかにするため「鶴見大学図書館蔵」に変更した。

新刊 ア・ラ・カル・ト

アメリカの編集者たち 常盤新平 集
英社 1980 021.4-T

アメリカの出版界は19世紀から数々の名編集者を生みだしてきた。ことに雑誌の成功するところ、かならず優秀な編集者がいた。「エスクアイア」、「ニューヨーカー」、「プレイボーイ」など枚挙にいとまがない。単行本の出版においてもその存在を抜きにしては語れない。奇しくもスタインベックは彼の編集者だったP.コヴィチが亡くなったとき、「…名編集者が父であり、母であり、教師であり、悪魔であり、神であることは、作家にしか理解できない」と語っている。文学とジャーナリズムの舞台裏にあって、著者の最高の能力を引きだしてきた名編集者16人の列伝。編集者は触媒である…。

博物館の世界一館長対談 梅棹忠夫編
中央公論社 1980 (中公新書567)
069.04-H

本書は国立民族学博物館の広報普及誌である『月刊みんぱく』に連載されている「館長対談」の記事をまとめたもので先の『民博誕生一館長対談』に続く2冊目である。内容としては前著同様博物館あるいはそれに関連ある分野で現在活躍されている方と梅棹館長との対談であり、読んだ後博物館の現状を知り今迄と違った見方が生まれることは確かだと思う。特に博物館はこの10年間で質量ともに大きく変わってきていること、強制的ない学習の場として運営に努力がなされてきたこと、博物館の機能のなかにナチュラル・ヒストリー的なものを専門に分担するようになってきていることなどが印象に残る。

「世界の宗教」 村上重良 岩波 1980
岩波ジュニア新書 160.2-M

若い世代に語りかけるようにして、この岩波ジュニア新書が発足したのが昨年の六月である。本書はそのうちの一つで宗教について、かたよりのないまとまった知識を与える。古今東西宗教の数は実に多数におよぶ、人々は言語をもち、火を使い、道具をつくり、信仰をもった。人類文化を形成する過程で、宗教の占める意義は大きい。今日世界三大宗教といわれるもののほか最早過程としての宗教ではなく普遍なのである。宗教文化は、信仰者のものだけでなく人類共有の財産であることを教える。

ペルシア文化渡来考 —シルクロードから飛鳥へ— 伊藤義教 岩波 1980
210.3-I

近年のシルクロードブームの中にあって、なお、見逃されがちな問題も多いが、本書はペルシア文化やゾロアスター教が日本文化史に与えた影響について、著者の専門とする言語学的な立場からアプローチを試みた書である。大和朝廷へのゾロアスター教徒の来日を論証し、正倉院の屏風、東大寺二月堂の修二会（お水取り）、酒船石などに残された遙かペルシア文化の影響を丹念に追求している。

聖徳太子 (1)仏教の勝利 梅原猛 小学館 1980 288.42-S

梅原氏は10年程前「隠された十字架—法隆寺論」を著わし、多くの波紋を投げかけた。今回は聖徳太子その人にスポットを当てたもので全4巻中の第1巻である。その太子を論ずるに当っては従来とかく日本の国内状況で

のみ考えられていたのを、当時の東アジア全体の状況の中で考え直す方法がとられ、この巻では仏教伝来時の中国、朝鮮の事情、蘇我・物部の宗教戦争、法興寺の建立までを扱う。氏の説には批判もあるが、その著作はとにかく掛値なしに面白いのである。一読されたい。

洞窟絵画から連載漫画へ L. ホグベン 南博等訳 岩波 1979 361.54-H

原始時代から現代に到るコミュニケーションの歴史を、人類の文明化の過程に照らし合わせながら包括的に捕えた、この分野における先駆的著作である。(原著は1949年発行) イギリスの生物学者で啓蒙家として知られる著者は、その広範な知識を基に、洞窟絵画、暦、文字、数、印刷、広告、漫画、テレビ、教育等のトピックに対し、綿密な、しかも興味深い考察を行うとともに、現代におけるコミュニケーションの危機的状況を分析し、未来への方向づけを示唆している。

現代天文百科 S. ミットン編 古在由秀 寿岳潤 森本雅樹共訳 岩波 1980 440.3-C

本文は23章からなり、現代天文学の一般的知識が写真等を豊富に用いて簡潔に説明されている。巻末には肉眼で見ることのできる全ての恒星を示した星図が付されている。第12章「太陽系を構成する小天体」には、流星・流星物質・隕石・彗星の記述があり、流れ星にもいろいろな種類のあることもわかる。肉眼で観測しても1時間に6～8個もの流星が見れるとのことだが、星さえも数えるほどしか見えない夜空では望むべくもないことである。

名作挿絵全集 全10巻既刊3巻 平凡社 1979 726.508-M

キラ星のように輝く、明治から現代までの名作挿絵を10巻にまとめ、特に黄金時代といわれる昭和戦前期に焦点を当てて、半分の5

巻をさき、その中をジャンル別に分けている。「大菩薩峠」などの代表的な作品は、一篇につき8～16頁に渡って、挿絵とダイジェスト版を載せ、頁を繰るだけで、かつての名場面が浮び上ってくる構成で、いわば眼で見る懐しのメロディーの感があるが、それだけでなく、巻末の大衆文学史・文化史は読み物としても充実していて、時代相を探るに恰好の資料といえる。

利休とその妻たち 三浦綾子 主婦の友社 1980 913.6-M

本書は「主婦の友」誌上二年間にわたって連載された作品で綿密な調査と新しい史眼に立った歴史小説である。利休と、その美しさ、才、心の深さで、生涯利休の心を捕えて離さなかった、後妻宗恩との出会いから利休の切腹までを軸に、当時の一大権力者秀吉とその秀吉の権力に届することなく、茶道の精神を貫いた反骨の茶聖利休との息づまる様な対決は、読む者を最後まで引き付け、飽かすことがない。特に宗恩がクリスチャンであったという仮説は、興味深いものがある。

藤村の童話 全4冊 島崎藤村 筑摩 1979 913.6-S

昭和16年に刊行された『藤村童話叢書』(研究社版)全4冊をもとにして、竹久夢二のさし絵を収め、現代表記に改めたもの。多感な少年のための読本として、童話作成を思い立ちつくられたこれらの童話は、夢から現実の世界へ旅立とうとする人々を励まし、勇気づけてくれる。木曾街道馬籠宿の旧家で生まれ育った藤村のおさなき日の思い出・人間・自然・言葉など——だれしものが心に描いているふるさとの郷愁をそっとよみがえらせてくれる。

図書館だより

◎閉館日のお知らせ

5月31日(土)・月末閉館日

6月30日(月)

◎複写申込方法変更

4月から複写申込の手続・時間が変わりました。今までのように、直接会計課に支払わず、会計課前にある証紙販売機で証紙を購入して申込書に貼付するという方法になりました。申込時間は平日9時から4時、土曜日9時から1時となります。

◎本館閲覧室一部移動

4月15日より入口の左手にあったブラウジング・コーナーが廃止となり、書庫に変わって、今までこのコーナーにあった雑誌は3階の階段わきに移動しました。また、2階の大型本・絵本と専門雑誌の位置も入れ変わりました。雑誌の配架場所は、2階に日本文学関係・英米文学関係・図書館学関係・博物館学関係・一般雑誌、3階に保育関係・保健関係・一般雑誌というような内容によって配架されています。

図書館の展示

小さなスペースを窓口にして、所蔵資料の紹介をしてきましたが、今年も次のような要領で行ないます。

- (1) 文庫本のさまざま(4月15日～5月24日)
戦前の新潮文庫、岩波文庫、春陽堂文庫などを中心として、さらに昭和20年代に刊行された数多くの文庫本を展示。
- (2) キリシタン版(6月2日～7月5日)
1591年から約20年間にわたり、日本耶蘇会が活版印刷機を用いて印刷した伊曾保物語、ドチリナ・キリシタン等の印刷物

の複製版を展示。

- (3) 明治の小説と口絵(9月1日～9月27日)
本学図書館にあらたに収蔵された、明治30年代の小説本の美しい木版口絵と、同年代の文芸雑誌の木版口絵を展示。
- (4) 聖書 (10月1日～10月30日)
The Book と呼ばれる聖書のうちグーテンベルク聖書、フストのマインツ詩篇等初期刊本(複製)を中心に展示。
- (5) 和歌の諸形態(11月17日～12月20日)
日本古典文学の中核をなす和歌の本を、勅撰集・私撰集・私家集・歌合など形態別に展示。

編集後記

新入生を迎えて若々しいっぱいの校内ですが、図書館も新館長に中村初雄文学部教授が就任し、本誌の編集委員も若干の交代があり、気分新たにスタートしました。今回の特集としては、昭和54年度の年次報告を組みました。これにより当館の大体の実態を把握していただけるものと思います。また子供の頃の本の思い出を山本昭歯学部教授が書いて下さいました。(蓮見)

アゴラ 一鶴見大学図書館報一

1980・春号(通巻第3号)

昭和55年5月15日発行

発行 鶴見大学図書館

館長 中村初雄

横浜市鶴見区鶴見2-1-3

TEL (045) 581-1001